

平成29年度 えりも地域ゼニガタアザラシ保護管理協議会

議事概要

議事1. 平成30年度ゼニガタアザラシ管理事業実施計画（案）について

- 事務局より、資料1に沿って平成29年度事業実施結果を報告した後、小林委員より平成29年度のモニタリング調査結果を報告。
- 事務局より、資料1に沿って平成30年度事業実施計画（案）について説明。実施内容は平成29年度と大きく変わりなく、基本的には継続して実施していく予定。捕獲頭数は平成29年度と同じく140頭を目標とする。被害防除対策として、格子網の網目を菱型にしたり、忌避装置の耐久性を向上させたり、改良できるところは改良していく。

- 主な意見
 - ・0歳の捕獲数が多かったということだが、これによって予想される危険性はあるか。（漁業関係者）
 - ・0歳を多く捕獲したことにより数年後に頭数が大きく減る可能性もあると思う。この事業は漁業被害を減らしながら、ゼニガタアザラシと地域との共存を目指すものなので気を付けて実施していく必要がある。（委員）
 - ・個体群にどのように影響が出るかについて北門委員に影響評価をしてもらっている。その影響をどう評価するかについては2年3年と継続していかないと結果が見えないと思う。（委員）
 - ・私の定置は構造上、格子網を付けることができない。忌避装置は効果があるように感じる。他にもより効果が上がるような忌避装置の研究を行ってほしい。（漁業関係者）
 - ・サケの話ばかり出ているがタコの被害も深刻なので対策を考えて欲しい。（漁業関係者）
 - ・タコに関しては今年度勉強会なども開催して目に見えない被害も多いという指摘もあったので、まずは現状を把握する方法を検討したい。（事務局）
 - ・タコの被害が出ているのは日本特有で、人間がタコを捕獲していることによってゼニガタアザラシがタコを餌とできている面がある。また、タコは胃の中で長く残るため、被害として注目されやすいという面もある。漁業被害の全体像が把握できていないため、その把握が火急の課題である。（委員）
 - ・格子網の使い方を工夫することで、まだ被害防止効果は上げられそうだ。（漁業関係者）

- 平成30年度管理事業実施計画（案）について、特段の反対意見はなく了承された。

議事2. その他

- 北海道日高振興局より「親子で考えようゼニガタアザラシ学習観察会」について案内があった。
- えりも町教育委員会より、環境省のえりも自然保護官事務所とも協力して、コンブや百人浜の植樹活動など地域の自然に関わる環境学習の中でアザラシに関する学習も小中高校で行っていききたい旨、発言があった。

- ◆協議会終了後、一般参加可能な報告会を開催し、研究者からゼニガタアザラシの保護管理に係る調査研究等について報告いただいた。

以上